

～子ども目線での住まいの地震対策は必要＝87.8%に達する～
子ども目線での地震対策に関する調査結果報告書

株式会社LIXIL住宅研究所では、全国(沖縄を除く)の未就学児(小学校入学前の子ども)がいる女性を対象に、子ども目線での住まいの地震対策や子どものための非常用持ち出し袋などについて調査を実施しましたのでご報告します。なお、有効回答:580、調査時期:2023年7月28日から7月31日です。

■調査結果の総括

住まいの地震対策は、大人目線での対策もちろん必要ですが、子どものいる家庭では子ども目線での対策も考える必要があります。今回の調査では、住まいの地震対策を行っている方の内、子ども目線での住まいの地震対策を行っている方が6割以上となっています。その対策として、子どもの寝ている場所に家具などが倒れないようにしたり、ケガをしそうな物は低い場所にも置かないなどが上位です。また、子ども目線での住まいの地震対策をあまり行っていない理由としては、何をすれば良いかわからない、手が回らなかった、知らなかったなどが多くなっています。

子ども目線での住まいの地震対策は9割弱が必要を感じており、このことから子ども目線での住まいの地震対策に関する周知徹底が必要と思います。

非常用持ち出し袋についても、子ども目線で改める必要があります。今回、子ども用に準備しているものとして、子どものための食べ物、子ども用の衛生用品などが上位となっていますが、3割程度にとどまっています。子どもとの避難所生活のために必要と思えるものはできるだけ準備することが肝心です。

また、子どもと一緒に行動したことがある避難訓練/避難対策としては、地震を想定して、子どもを守ったり＝かぶさる、頭を抱える姿勢を練習したことがあるが最も多くなっていますが、17.4%にとどまっています。さらに、地震などの際に、子どもに関することで、不安に感じていることでは、避難の途中で、子どもと離れなければならないか不安が4割以上に達しています。

■調査結果の要約

- 今回の調査では、住まいでなんらかの地震対策を行っている方が73.6%となり、地震対策を行っている方の内、子ども目線での住まいの地震対策を行っている方が62.5%となりました。

- ・ 住まいでなんらかの地震対策を行っている＝73.6%
- ・ 住まいで地震対策を行なっている方の内、子ども目線での住まいの地震対策を行っている＝62.5%

- 子ども目線での住まいの地震対策としては「子どもの寝る場所(ベビーベッドなど)に家具などが倒れないようにしている(46.8%)」「地震で落ちて子どもがケガをしそうな物は低い場所にも置かない(41.2%)」が上位です。

- ・ 子ども目線での住まいの地震対策(子ども目線での住まいの地震対策を行っている方が回答)

子どもの寝る場所(ベビーベッドなど)に家具などが倒れないようにしている	46.8%
地震で落ちて子どもがケガをしそうな物は低い場所にも置かない	41.2%
扉付き家具のすべて(背の低いものも含む)に揺れて開かない対策を行っている	33.7%

- 子ども目線での住まいの地震対策をあまり行っていない方に理由を聞いたところ、「子ども目線での住まいの地震対策は何をすれば良いかわからなかったから(46.6%)」が最も多く、子ども目線での具体的な地震対策の周知が必要であることが判明しました。

- ・ 子ども目線での地震対策を行っていない理由(子ども目線での住まいの地震対策を行っていない方が回答)

子ども目線での住まいの地震対策は何をすれば良いかわからなかったから	46.6%
子ども目線での住まいの地震対策まで手が回らなかったから	30.1%
子ども目線での住まいの地震対策が必要だとは知らなかったから	21.2%

- 全ての方に子ども目線での住まいの地震対策の必要性を質問したところ、必要であるが87.8%に達しています。
 - ・子ども目線での住まいの地震対策は必要だと思う=87.8%、思わない=6.6%
- 地震などの時に子どもと一緒に避難するために非常用持ち出し袋に入れているもの(袋と一緒に置いてあるものも含む)を複数回答で聞いたところ、3割以上になったのが「子どものための食べ物/食料、飲料、お菓子、離乳食など(30.9%)」、「オムツや清浄綿、おしりふきなど衛生用品(30.0%)」の二つにとどまっており、多くの家庭で非常用持ち出し袋を子ども目線で改める必要があることが判明しました。
 - ・地震などの時に子どもと一緒に避難するために非常用持ち出し袋に入れているもの(近くにおいてあるものも含む)

子どものための食べ物(食料、飲料、お菓子、離乳食など)	30.9%
オムツや清浄綿、おしりふきなど衛生用品	30.0%
子ども用の防災ずきんやヘルメット	19.3%
 - ・非常用持ち出し袋などに子ども用のものは入れていない=7.8%、非常用持ち出し袋を用意していない=25.3%
- 子どもと一緒に行ったことのある避難訓練/避難対策では、最も多かった「地震を想定して、子どもを守ったり=かぶさる、頭を抱える姿勢を練習したことがある」でも17.4%にとどまっています。
 - ・子どもと一緒に行ったことのある避難訓練/避難対策

地震を想定して、子どもを守ったり=かぶさる、頭を抱える姿勢を練習したことがある	17.4%
子どもがケガをした場合の応急処置の訓練を受けたことがある	15.0%
- 地震などの際に、子どもに関することで、不安に感じていることでは、「避難の途中で、子どもと離れなければならないか不安」が4割以上に達しています。
 - ・地震などの際に、子どもに関することで、不安に感じていること

避難の途中で、子どもと離れなければならないか不安	41.2%
避難所まで子どもと一緒に安全に行けるか不安	39.1%

■ 調査結果(詳細)

Q1.ご自宅で実施している住まいの地震対策をいくつかでもお選びください (MA) N=580

	実数	比率
寝室などの家具は倒れてもベッドなどの寝ている場所に倒れない方向にしている	153	26.4%
背の高い家具などを置かないようにしている	147	25.3%
テレビやパソコン(モニター含む)などに転倒防止対策をしている	138	23.8%
地震で落下した際にケガをしそうな物を高いところに置かないようにしている	128	22.1%
家具(タンス)などが倒れないように転倒防止対策をしている	123	21.2%
冷蔵庫など背の高い家電に転倒防止対策を実施している	123	21.2%
ダイニングテーブルなどは頑丈なものにしている	117	20.2%
照明(ペンダントライト)は揺れにくいものにしている	104	17.9%
家具などの扉が地震で開かないような工夫をしている	89	15.3%
ガラスや鏡に飛散防止フィルムを貼っている	77	13.3%
その他	4	0.7%
住まいの地震対策はそもそも何もやっていない	101	17.4%
わからない	52	9.0%

→ 住まいでなんらかの地震対策を行っている方=73.6%

→ 住まいの地震対策はそもそも何もやっていない方=17.4%

Q2. お住まいの地震対策において、子ども目線でも対策を行っていますか？(SA)

※Q1で「住まいの地震対策はそもそも何もやっていない」「わからない」を除く方が回答

	実数	比率
子ども目線で住まいの地震対策をすべて行っている	106	24.8%
すべてではないが子ども目線で住まいの地震対策を行っている	161	37.7%
あまり子ども目線で住まいの地震対策は行っていない	86	20.1%
子ども目線での住まいの地震対策を行っていない	60	14.1%
わからない	14	3.3%
計	427	100.0%

→ お住まいの地震対策において子ども目線でも対策を行っている方は、子ども目線で住まいの地震対策をすべて行っている方と、すべてではないが子ども目線で住まいの地震対策を行っている方の合算=62.5%

→ お住まいの地震対策において子ども目線でも対策を行っていない方は、あまり子ども目線で住まいの地震対策は行っていないと、子ども目線での住まいの地震対策を行っていない方の合算=34.2%

Q3.ご自宅で実施している子ども目線での住まいの地震対策をいくつでもお選びください(MA) N=267

※Q2で「子ども目線で住まいの地震対策をすべて行っている」「すべてではないが子ども目線で住まいの地震対策を行っている」を選んだ方が回答

	実数	比率
子どもの寝る場所(ベビーベッドなど)に家具などが倒れないようにしている	125	46.8%
地震で落ちて子どもがケガをしそうな物は低い場所にも置かない	110	41.2%
扉付き家具のすべて(背の低いものも含む)に揺れで開かない対策を行っている	90	33.7%
子どもが逃げ込めるようにダイニングテーブルなどを固定して頑丈なものにしている	87	32.6%
リビングのソファやテーブル、テレビ台などは揺れで動かないようにしている	85	31.8%
背の低い家具も転倒防止対策をしている	83	31.1%
その他	1	0.4%
わからない	2	0.7%

Q4.お住まいにおいて、子ども目線での地震対策を行っていない理由をいくつでもお選びください(MA) N=146

※Q2で「あまり子ども目線で住まいの地震対策は行っていない」「子ども目線での住まいの地震対策を行っていない」を選んだ方が回答

	実数	比率
子ども目線での住まいの地震対策は何をすれば良いか知らなかったから	68	46.6%
子ども目線での住まいの地震対策まで手が回らなかったから	44	30.1%
子ども目線での住まいの地震対策が必要だとは知らなかったから	31	21.2%
子ども目線での住まいの地震対策は、親(大人)目線の対策で十分だと思っていたから	21	14.4%
子ども目線での住まいの地震対策が周知されていないから	15	10.3%
わからない	7	4.8%

Q5.子ども目線での住まいの地震対策は必要だと思いますか？

	実数	比率
必要だと思う	509	87.8%
必要だと思わない	38	6.6%
わからない	33	5.7%
計	580	100.0%

Q6.地震などの時に子どもと一緒に避難するために、非常用持ち出し袋に入れているもの(袋と一緒に置いてあるものも含む)をいくつでもお選びください(MA) N=580

	実数	比率
子どものための食べ物(食料、飲料、お菓子、離乳食など)	179	30.9%
オムツや清浄綿、おしりふきなど衛生用品	174	30.0%
子ども用の防災ずきんやヘルメット	112	19.3%
子どものための授乳用品	99	17.1%
子どものおもちゃ	97	16.7%
子どもの気分転換になる絵本やカードゲームなど	92	15.9%
避難する時こためのおんぶやだっこできる紐・用具など	85	14.7%
子どもの好きなぬいぐるみ	79	13.6%
その他	4	0.7%
非常用持ち出し袋などに、子ども用のものは入れていない	45	7.8%
そもそも非常用持ち出し袋を用意していない	147	25.3%
わからない	27	4.7%

Q7.子どもと一緒にやったことのある避難訓練/避難対策をいくつでもお選びください(MA) N=580

	実数	比率
地震を想定して、子どもを守ったり=かぶさる、頭を抱える姿勢を練習したことがある	101	17.4%
子どもがケガをした場合の応急処置の訓練を受けたことがある	87	15.0%
避難所まで子どもと一緒にやったことがある	85	14.7%
避難の時に防災ずきんやヘルメットをかぶったことがある	83	14.3%
子どもが背負う非常用持ち出し袋を用意している	82	14.1%
子どもには、氏名・住所・連絡先、血液型などのメモを常に携帯するようにしている	81	14.0%
非常用持ち出し袋を家族それぞれが実際に背負ったことがある	76	13.1%
子どもと一緒に避難訓練/避難対策はやったことがない	273	47.1%
その他	4	0.7%
わからない	28	4.8%

Q8.地震などの際に、子どもに関することで、不安に感じていることをいくつでもお選びください(MA) N=580

	実数	比率
避難の途中で、子どもと離ればなれにならないか不安	239	41.2%
避難所まで子どもと一緒に安全に行けるか不安	227	39.1%
避難所で子どもに必要なものが手に入るか不安	227	39.1%
万一子どもがケガをした場合、自分で応急措置できるか不安	218	37.6%
自宅内で子どもがケガをしないか不安	217	37.4%
子どもが保育園や幼稚園などに行っていた場合、無事に避難できるか不安	217	37.4%
避難所で子どもが泣いたりクズったりして、周りに迷惑をかけないか不安	200	34.5%
地震などで子どもが精神的な障害(PTSD など)にならないか不安	162	27.9%
その他	1	0.2%
不安なことはない	20	3.4%

●調査概要

- 有効回答:580 サンプル
- 調査対象:未就学の子どものいる20歳以上の女性

	実数	比率
20代	125	21.6%
30代	364	62.8%
40代	91	15.7%
全体	580	100.0%

- 調査時期:2023年7月28日から7月31日
- 調査地域:全国(沖縄を除く)

【地域】

	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方
実数	22	25	217	98	112	45	14	47
比率	3.8%	4.3%	37.4%	16.9%	19.3%	7.8%	2.4%	8.1%

- 調査方法:WEB調査
- 調査会社:ジャストシステム

◆当社概要

- 会社名 株式会社LIXIL住宅研究所
- 代表者 代表取締役社長 加嶋 伸彦
- 本社所在地 〒141-0033 東京都品川区西品川1-1-1
- URL 【株式会社LIXIL住宅研究所】 <https://www.lixil-jk.co.jp/>



◆LIXIL住宅研究所 概要

住宅及びビル建材・設備機器の製造販売・住宅フランチャイズチェーンの運営など、総合的な住生活関連事業を展開するLIXILの一員です。住宅フランチャイズチェーン事業の運営を担う企業として、アイフルホーム、フィアスホーム、GLホームの3ブランドを展開し、国内最大級の住宅フランチャイズチェーン事業を展開しています。

【ご参考】

LIXIL住宅研究所のアイフルホームは、性能表示制度における「構造の安定」(構造躯体の倒壊等防止)において最高等級の「耐震等級3」相当の耐震性能を実現し、家族の安全・安心を確保しています。また2008年から「キッズデザイン研究所」を社内シンクタンクとして創設し、今まで17万棟の家づくりを通して集めてきた子育て家族のパパ、ママ、キッズの要望に応じてきました。2022年度からは、北海道から九州にお住まいの子育てママをママアンバサダーとして組織化しています。そして、ママアンバサダーからの商品開発などに関する様々な意見を集め、子育てや家事の効率をよくするなどのアイデアを盛り込んだ、忙しい共働き子育て世代のための「子育てしやすい家」を提案しています。

この「子育てしやすい家」では、子どもはもちろん、すべての世代の人が安心して暮らせる「みんなにやさしい家」にするため、子どもの安全を基準に考えた「キッズセーフティ」という考えを採り入れています。

●「子ども目線、子ども基準での家づくり」での事例

1)家の中で子どもがしやすいケガについての対策



ソフトモーション

閉め忘れ防止、閉まる時の衝撃音を軽減。様々な生活シーンに役立つ便利な機能。



安心すこやか階段

健康と安全を守る！抗ウィルス性能や転倒予防性能を備えたオリジナル階段。



R出隅

角に丸みをもたせることで、ぶつかった時にけがをしにくい安全設計。



チャイルドロック

小さな子どもの浴槽等への転落を抑制するため、脱衣室とトイレの扉にチャイルドロックを設置。



チャイルドロックで予防

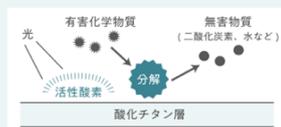
子どもがキッチンに入り込んで危ない場面でも、チャイルドロックで予防。

2) ウイルスや細菌などから子どもを守る安心設計

赤ちゃんのハイハイや床に広がるおもちゃの清潔面が心配な方のために、抗菌仕様のフローリングを用意しています。滑りにくいため転倒防止の効果もあります。

抗菌仕様のフローリングで寝転んでも安心

アイフルホームのオリジナル床材「清潔すこやかフロア」は光触媒が有害物質を分解、低減。免疫力の低い子どもや妊婦の健康を守ります。また、表面はエンボス加工で滑りにくく、転倒を予防します。



3) 料理しながら子ども見守れる

食事の支度中も目が離せない子どものため、キッチンから遊んでいる様子を見守ることができます。



→ [アイフルホームの「子ども目線、子ども基準での家づくり」のサイトはこちら](#)